学位論文審査の結果の要旨

石山　雄貴

本研究は、東日本大震災による甚大な被害を受けた三陸沿岸部における復興過程から、復興教育の課題と可能性を明らかにしたものである。震災からの復興過程における「創造的復興」と呼ばれるものは、大都市圏と農山漁村圏との「中心−周辺」の関係から生み出された被災前の地域社会がもつ「脆弱性」をより増大させるものであった。被災地の持続可能性を保証していくためには、復興を契機にこうした関係性を問い直すものでなければならない。被災地におけるこうした課題は、我が国の農山漁村地域にほぼ共通するものであり、震災被害という極限状況のもとで問題が先鋭化して現れていると捉えることができる。本論文では、被災者主体の復興に向けた実践から東日本大震災における「内発的復興」とそれを支える復興教育の可能性を明らかにする中で、グローバリゼーションの矛盾に向き合う新しい教育のあり方を提起している。

本論文では、気仙沼復興商店街南町紫市場（仮設商店街）づくりと石巻市雄勝地区における教師の復興教育の実践分析から、「内発的復興」がもつ３つの要素に注目した。すなわち、①「被災後の生活の切実さに寄り添っていく視点」を持つ実践を原動力とし、②「被災前からの課題を被災者主体で乗り越えていく視点」と③「被災地・被災者の文脈に基づく視点」を獲得していく実践を両輪として展開していく構造をもつ復興教育のあり方を具体的に明らかにした。

以上のように、本論文は、多くの新しい知見を有すること、論文の内容、構成および公表論文数などから、本学位論文審査委員会は全員一致して、本論文が博士（学術）の学位論文として十分価値があるものと判断し、合格と判定した。

最終試験の結果の要旨

石山　雄貴

最終試験は、平成２９年１月２１日に東京農工大学農学部にて、学位論文の公開発表に引き続き、論文審査委員により行われた。最終試験では、学位論文の専門領域に関する質疑応答がなされた。その結果、本審査委員会は石山雄貴君が自立して研究を進めることができる学力と見識を有しており、博士（学術）の学位を授与するに足る資格があると認め、最終試験を合格と判定した。

◎博士（学術）を授与する理由

本研究は、東日本大震災後の農山漁村地域及び隣接する地方市街地における被災者主体の「内発的復興」の課題と可能性を実証的に明らかにするとともに、「復興教育」という新たな教育概念を本格的に提起したものである。これは、農学を基礎に農山漁村地域の開発問題に新たな問題を提起するとともに、学問分野を超えた学術的に重要な研究成果であると言える。その意義を踏まえて、本学位論文審査委員会は、全員一致して、博士（学術）を授与することが適当と判断した。